群馬県教育委員会における事例

目 標

〇コミュニケーションツールとしての英語力と自立的な英語学習態度の育成

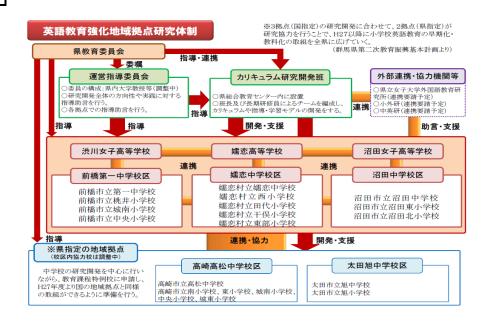
主な内容

- 〇小中高一貫した学習到達目標の設定と評価の改善
 - 各発達段階に応じた学習到達目標の設定
 - ・定期考査やパフォーマンステストの改善・開発
 - 自律的な学習態度育成のための家庭学習、系統的な辞書指導等に関する研究
- 〇小中高一貫したカリキュラムの開発
 - 小学校低学年:英語に触れる機会の充実
 - ・小学校中学年:外国語活動の早期実施
 - ・小学校高学年:教科としての英語学習の実施
 - 中学校:英語で行う授業スタイルについて指導の在り方の研究
 - 高等学校:ディスカッション、ディベートなどを中心とした言語活動の実施
- 〇小中高を通じた地域題材を活用した単元開発

研究計画

- 〇研究1年次:群馬県教育委員会と強化地域拠点における指導・研究体制の確立。強化地域拠点内の学校におけるカリキュラム開発と検証・改善。
- 〇研究2年次:県として、各学校の学習到達目標を含めた指導計画作成のための支援資料作成。協働学習を中核とした言語活動の実践。
- 〇研究3年次:評価方法の研究開発(定期考査・パフォーマンステストの改善)。家庭学習の実践・学習モデルの開発。
- 〇研究4年次:3年間の検証・総括。次期学習指導要領の改訂を踏まえ、県としての指導・ 評価方法等のモデル確立・普及。

研究体制



研究1年次の取組

月	強化地域拠点の取組
4月	・地域拠点ごとの連携体制の整備・本年度の研究開発課題や計画の共通理解・校内研究組織の整備、学校ごとの研究計画の立案・各拠点地域担当者会議の実施
5月	第1回県英語教育連絡協議会授業実践
6月	・各拠点地域担当者会議の実施・各拠点地域における授業公開(小中高)(2学期実施の管内における公開授業のプレ授業)
7月	・授業実践・周辺校(各拠点地域)への研究成果の発信・児童生徒、教員への質問紙調査の実施(1回目)
8月	・1学期の研究推進の総括 ・各拠点地域担当者会議の実施 ・各研究校における校内研修の実施
9月	• 授業実践
10 月	・各拠点地域担当者会議の実施・各拠点地域における授業公開(小中高)・研究校における授業公開に基づく教員研修の実施(小学校)
11 月	・授業実践・英語カ判定テスト(中学校2年生予定)・周辺校(各拠点地域)への研究成果の発信
12 月	・2学期の研究推進の総括・各拠点地域担当者会議の実施・授業実践
1月	• 授業実践
2月	・第2回県英語教育連絡協議会・各拠点地域における授業公開(小中高)・本年度の研究推進の総括
3月	・次年度の研究開発の準備

国際的視点に立ち、自らの考えを発信できるぐんまの子どもの育成

義務教育課 高校教育課 総合教育センター

国の英語教育改革推進計画(平成30年度から実施)

小学校3·4年 → 小学校5·6年 → 中学校 外国語活動 教科「英語」

高等学校 英語による授業

<高度化>

高度な言語活動

<早期化> <教科化>

本県の教育課題

【英語教育の課題】

- ・小、中、高の円滑な接続
- ・教員の指導力・英語力の向上

【国際化に向けての課題】

- ・群馬県人としてのアイデンティティーの向上
- ・自国と外国の文化を理解する力の育成

豊かな語学力の育成を目指した外国語教育の推進

「群馬県版小学校英語教育カリキュラム」の開発

- ☆平成26年度~28年度
- ☆カリキュラム開発チーム(総合教育センター)による指導計画、指導資料、 映像・音声教材の開発
 - 〇小学校1・2年生用 外国語活動カリキュラム 10時間
- 〇小学校3・4年生用 外国語活動カリキュラム 70時間
- 〇小学校5・6年生用 教科「英語」カリキュラム 105時間

「英語の授業カアップ」教員研修

- ☆平成27年度~29年度
- ☆指導力アップ研修・・・○小学校英語教育推進教員養成研修
 - 〇中学校英語教員指導力向上研修
 - 〇高等学校英語教員指導力向上研修
- ☆英語カアップ研修・・・○中高の英語教員の英語力を英検準1級程度に

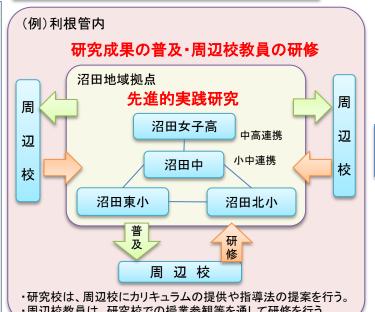
英語教育強化地域拠点事業

〇県内5拠点を指定(平成26年度~29年度)

国指定:前橋(中部)、嬬恋(吾妻)、沼田(利根)

県指定:高崎(西部)、太田(東部)

- ○各地域拠点内に、小、中、高の研究校を置く。
- 〇先進的実践研究
 - ・「群馬県版小学校英語教育カリキュラム」 の先行実践
 - ・小学校英語教育を踏まえた中学校、高等 学校の指導方法の研究
 - ・中高生徒の英語力の測定(外部試験の実 施)による研究成果の検証
- ○周辺校への研究成果の普及
- ○研究校での周辺校教員の研修



・周辺校教員は、研究校での授業参観等を通して研修を行う。

目指す児童生徒の姿

【高校生】

- ・郷土の歴史、文化を話題にして 外国人と対話をすることができる。
- •英検準2級の生徒が60%以上



【中学生】

- ・郷土の歴史や文化について簡単な 英語で紹介することができる。
- •英検3級の生徒が50%以上



【小学生】

- ・あいさつや自己紹介をしたり、自分 の気持を伝えたりすることができる。
- 英語の学習が好きな児童が100%

平成26年度 英語教育強化地域拠点事業(全体構想図)

県教育委員会義務教育課

第2期 群馬県教育振興基本計画

【取組の柱③】

らの考えを発信できる 力の育成

国際的視点に立ち、自

国の計画(平成30年先行実施)

【小学校第3·4学年】 ・外国語活動 (週1~2コマ程度)



【小学校第5·6学年】

教科「英語」(週2~3コマ程度)



【中学校】

・到達目標の高度化 (授業を英語で行う)

「グローバル化に対応した英語教育改革実施計画」(H25年12月)において、小学校における英語教育の拡充強化、中・高等学校における英語教育の高度化など、小・中・高等学校を通じた英語教育全体の充実が示された。

国指定の地域拠点(3拠点:前橋市・嬬恋村・沼田市)

<小学校>

- 小学3・4年生の外国語活動の実施(H26、27年度 週1時間)
- 小学5・6年生の教科としての英語の実施 (H26 週1時間、H27~週2時間)

<中学校>

- 英語で行う授業スタイルの実践
- CAN-DO型到達目標の設定と評価方法の工夫
- 辞書指導や家庭学習に関する実践研究

<小中共通>

- 協同学習を中核に据えた言語活動の実践
- 英語能力判定テストによる成果の検証

県指定の地域拠点(2拠点:高崎市・太田市)

<小学校>

- 小学校英語の早期化、教科化を見据えた工 夫や指導体制に関する実践研究
- 文字指導の工夫に関する実践研究 など

<中学校>

- 英語で行う授業スタイルの実践
- CAN-DO型到達目標の設定と評価方法の工夫
- 辞書指導や家庭学習に関する実践研究 など

<小中共通>

- 協同学習を中核に据えた言語活動の実践
- 小学校外国語活動担当と中学校英語科職員 の相互授業参観や情報交換 など
- ※平成26年8月に特例校申請を行い、小学校英 語教育の早期化・教科化ができるようにする。

カリキュラム開発チーム(県総合教育センターに設置)

◎ 小学校英語教育の早期化及び教科化に関わるカリキュラム開発の拠点

連携協力校(高等学校)

◎ 新課程における指導改善の拠点